

## その他の取り組み

これまでにご紹介した取り組みの他にも、東京ガスでは多くの取り組みを進めています。

LNG バリューチェーンの高度化に資する取り組みとして、その中から4事業についてご紹介いたします。

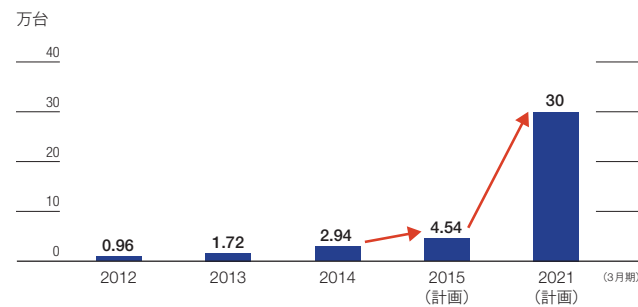
### 1 エネファーム

家庭用燃料電池「エネファーム」は、お客さまの地先に設置する分散型発電システムです。都市ガスを燃料として発電すると同時に、発電時に発生する熱を給湯に利用する、エネルギー効率に優れたシステムです。エネファームを導入いただいたお客さまのガス使用量は増加するため、家庭用ガス販売分野における重要な戦略商品と位置づけています。

2009年に第1号機を発売して以来、改良を進めてきました。2014年4月時点で約3万台のストックを実現しています。

2021年3月期には、「ビジョン」で掲げたストック30万台の実現を目指し、改良、販売に取り組んでいます。

エネファーム（家庭用）のストック計画



これまでの取り組み

2009年5月	第1号機発売
2011年4月	従来より約70万円の低価格化（希望小売価格263万円（税抜））を実現した新型エネファーム販売開始
2013年4月	新型エネファーム販売開始。希望小売価格190万円（税抜）を実現
2014年4月	集合住宅向けエネファームの販売開始

### 2 水素ビジネス

ガソリン車に代わる自動車として、環境負荷が小さい水素自動車に注目が集まっています。水素自動車とは、水素と酸素の化学反応によって発電した電気エネルギーを使って、モーターを回して走る自動車です。当社が供給する都市ガスは主にメタン（CH<sub>4</sub>）によるため、都市ガスから水素を取り出して水素自動車の燃料とすることができます。

現在、東京都練馬区、埼玉県さいたま市の2ヶ所に水素ステーション（充填所）の建設を進めています。水素自動車普及のためには、自動車の技術革新や価格低減に加え、燃料の水素の価格低減が必要ですが、当社は安定した価格で水素を供給することを通じて水素自動車の普及を後押ししていく考えです。



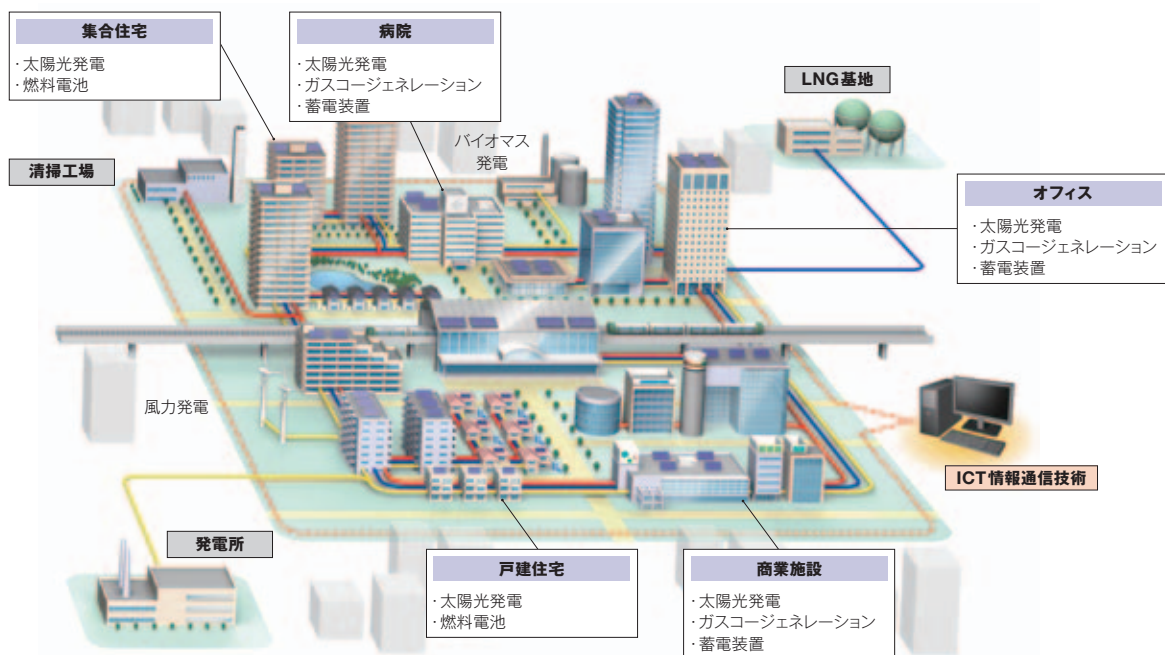
水素ステーション

### 3 スマートエネルギーネットワーク

当社は、「スマートエネルギーネットワーク」を提唱しています。再生可能エネルギーとガスコージェネレーションを組み合わせ、これを ICT (情報通信技術) により最適に制御し、ネットワーク内で電気と熱を「面的」に利用して省エネルギーとCO<sub>2</sub>削減を実現するというのが、そのコンセプトです。行政やパートナーとの連携により、

各種実証実験と実用化に向け、田町駅東口北地区におけるエネルギー需給最適化、豊洲埠頭地区における自然・未利用エネルギーを活用したエネルギー利用の取り組みなど、複数のプロジェクトを推進しています。

#### スマートエネルギーネットワークのイメージ図



### 4 海外エネルギーサービス事業

当社は、「ビジョン」の中で、2021年3月期の海外事業による利益を連結当期純利益の25%まで拡大する計画を掲げています。現在想定している主な収益源は上流事業ですが、今後は海外エネルギーサービス事業も拡大していく考えです。

タイ、マレーシア、ベトナムなどの東南アジア各国では、まだ

ガス導管網の整備が進んでいないためガスの利用は進んでいません。しかし一方、日本など各国企業が製造拠点をこうした地域に移す動きも加速しています。こうした中工業団地などを主なターゲットに、東京ガスの子会社である(株)エネルギーアドバンスが中心となってエネルギーの効率的な供給を提案していきます。

#### これまでの実績

2012年3月	ベトロトナムガス社との包括協力協定を締結(協議事項例として、エネルギーサービスに関する情報提供を明示)
2012年12月	三井物産(株)と(株)エネルギーアドバンスは、共同設置会社を通じて、ブラジルの商業・産業向けエネルギーサービス事業者エコジェン社の全株式を取得
2014年3月	マレーシアにおけるエネルギーサービス事業を展開するための合弁会社を設立